



岡山県の医療を守るために、 県民のみなさんをお願いしたいこと



岡山県内の医療提供体制がひっ迫しています。新型コロナのための確保病床使用率も、**8月10日時点で60%を超えました**。発熱外来や救急医療は逼迫し、**救急搬送困難事案が増加**しています。医療機関でのクラスター、また医療従事者の感染や濃厚接触による自宅待機も増加し、手術制限など**通常医療の提供が困難になっています**。高齢の方の感染者数増加により、今後もひっ迫状態が悪化すると予想されます。**あなたの大事な方が倒れても、必要な医療が受けられないかもしれません**。岡山県の医療を守るために、県民のみなさんに次のことをお願いさせていただきます。

現状に関する動画を作成しています
QRコードまたはURLをご参照ください



<https://bit.ly/3zH60EA>

各自でできること(感染対策)

- ・ 体調が悪かったら休みましょう
- ・ 屋内でのマスク着用(不織布マスクを推奨)
- ・ 手指衛生
- ・ 「三つの密の回避」、特に効果的な換気を
- ・ ワクチン接種(3回目、4回目)
- ・ 高齢者や基礎疾患を有する方と接する場合は、感染リスクの高い行動(大人数での会食など)は控えましょう

各自でできること(受診)

- ・ 緊急性の低い救急外来や外来受診を控えましょう
 - ・ 夜間や休祝日の救急受診を避け、平日の発熱外来受診を
- ・ 濃厚接触者の方は
 - ・ 発症しなければ、受診・診断は必要ありません
- ・ 新型コロナを疑う症状が出た場合
 - ・ 65歳未満で基礎疾患がない場合
 - ・ あわてて、検査や薬のために受診する必要はありません
 - ・ 市販薬や市販の医療用抗原検査キットの利用も検討しましょう
 - ・ 症状が重い、3日以上発熱が続くようなら受診をしてください
 - ・ 診断後は、市販薬を用い自宅療養を。症状継続するようであればかかりつけ医に相談してください。
 - ・ 65歳以上や基礎疾患がある場合
 - ・ 未診断の場合は、早めにかかりつけ医に相談をしましょう



令和4年8月11日 岡山県感染症専門家有志

市村康典(国立国際医療研究センター 国際医療協力局)、萩谷英大(岡山大学病院 総合内科・総合診療科)、藤田浩二(津山中央病院 総合内科・感染症内科)、頼藤貴志(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 疫学・衛生学分野)

チラシはこちらからも入手できます⇒岡山大学疫学・衛生学HP (<https://www.unit-gp.jp/eisei/wp/>)